

記 載 要 領

1. 履歴書：

- (1) 連絡先欄には、選考に関する連絡が可能な住所、電話番号及びメールアドレスを記載する。
- (2) 学歴欄には、**高校卒業以降のすべての学歴**について記載する。（入学年、卒業年は西暦で記載）
- (3) 免許・資格欄には、免許等の資格について取得年（西暦）月日・番号を記載する。
- (4) 職歴・研究歴欄には年代順にその期間（年・月）を明記し、職歴と研究歴を区別しない（職歴の始期と終期を明示）。所属の大学講座名、研究所又は施設名と共に職名、ポジションなどを記載する。非常勤講師の場合は「非常勤」と記載する。留学、外国出張の場合のポジションは原語で記載する。
履歴の空白部分はその理由を記載する。
- (5) 外国留学、外国出張は2ヶ月以上のものに限り記載する。
- (6) 賞罰欄には、学会賞などの受賞についても記載する。

2. 業績目録等：

- (1) 業績は、英文と和文を分けて記載すること。
初期のものから年代順に記載し、著者又は編者名は全員を記載する。
本人には下線を付け、全論文のコレスポンディングオーサーの氏名の後に*印を付ける。
主要論文（10編）の番号には○印を付ける。受賞論文、学位論文にはその旨を記載する。
最新版（2024年）のIF（Journal Citation ReportsのImpact Factor）、CI（Citation Index）を英文原著・総説・その他の論文毎に記載する。IFは小数点第1位まで記載する。
- (2) 著書は単著、共著、編者、分担執筆に分けて記載する。それぞれ著者又は編者名、書名、総頁、発行所、発行地、発行年を記載する。分担執筆の場合は、著者名、分担題目、書名、編者名、頁、発行所、発行地、発行年を記載する。
- (3) 原著は、審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限り、学会抄録などは含めない。
研究報告書・講演集などは「その他」に記載する。
未印刷の論文については、必ず掲載証明書を添付する。
- (4) 学会発表（様式3f）は国際学会、国内学会に分けて記載する。国内学会は特別講演（宿題報告、教育講演、基調講演などを含む）シンポジウム、ワークショップ（パネルディスカッション、ラウンドテーブルを含む）のみ。国際学会は一般演題を含む。国内学会の一般演題、府県単位の学会および研究会は除く。各項目は別々に分けて記載する。
- (5) 科学研究費などの取得状況（様式3g）は、科学研究費、その他の助成金、外部資金などについて種類・課題名・代表・分担・金額を区分して年度順に記載する。
特許については、特許名称、発明者、出願人、出願日、出願番号、公開番号、取得した場合は公告・特許番号を記載し、国外の特許を取得した場合はその国名も記載する。
- (6) 加入学会および社会における活動（様式3h）は、所属する主な学会名（10学会以内）のほか、役職名（幹事、評議員等）および学術雑誌の編集委員等を記載する。その他、各種の公的委員会、審議会委員なども記入する。併せて、加入期間及び活動期間等も記載する。
- (7) **業績集計表（様式3i-1）及び（様式3i-2）は、業績目録（様式3a～3g）に記載した業績について様式に従って記載する。**
- (8) 論文中の謝辞(Acknowledgment)などに記載される“participating investigator”（協力者）および“contributor”（貢献者）は著者として認めない。著者(Authors)の定義についてはICMJE (<https://www.icmje.org/recommendations/browse/roles-and-responsibilities/defining-the-role-of-authors-and-contributors.html>)を確認すること。
- (9) 研究の特色及び経過概要（様式5）については、業績との関連において、論文番号等を引用し記載する。
- (10) 教育実績の概要（様式6）は、最近5年間の講義、実習、セミナーなどを行っている大学名、担当科目および年間の時間数を年度順に記入する。また、医学教育セミナー等の参加状況も記載する。
- (11) 診療実績の概要（様式7）は、経歴にそって具体的な診療内容を記載することとし、病理診断の実施頻度、最近10年間で自ら試飲団した病理組織診断件数、最近10年間で自ら診断した細胞診件数及び最近10年間の解剖件数を必ず記載すること。
- (12) 今後の抱負（様式9）は、教育、研究および臨床について記載すること。

3. その他の注意：

- (1) 各様式に記載する年は、西暦で統一すること。
- (2) 提出書類様式右上の通し番号は**様式毎にではなく、推薦書（様式1）をNo.1とし今後の抱負（様式8）まで提出書類全体を通して付けること。（ページ数になるように）**
- (3) 提出書類（様式1～8）については片面印刷とし、ステープラー等で留めないようにすること。

- (4) 全英文論文（著書・原著・総説・その他）のデータについてはスキャナー等で電子化したPDFファイルに業績目録の記載順に「著書-01 花岡太郎（応募者名）」、「原著-01 花岡太郎」の様にファイル名を付け、記録媒体（CD, DVD, USBメモリ等）に保存して提出すること。主要論文10編については「○原著-02 花岡太郎」のようにファイル名の先頭に○をつけること。
なお、元データを入手できない場合は、任意の様式でその旨を記載し提出すること。
- (5) 本学の他の選考に応募している者は、重複して応募できません。